

(5) 入試関係

2021 年度も 2020 年度と同様に新型コロナウイルス感染症は全国だけでなく福岡県地域でも終息しなかったため、高校生へ向けた主要な理学部紹介イベントであるオープンキャンパスは対面ではなくオンライン形式での実施を余儀なくされた。2 年連続で高校生が大学キャンパスに入構できなかったことから、その進路選択に与える影響が懸念された。また、入学試験での感染に対する不安も引き続きあり、志願者数の減少も考えられた。

しかし、全国の私立大学全体では、共通テスト利用型を除いた一般入試志願者は前年比で 100%であった。福岡大学も、全学は前年比 100%であったが、理学部は 9.5%増と大きな増加となった。大手進学予備校の河合塾は、新型コロナウイルス感染症の影響で大学受験生の出願校数の減少が続いていると分析している。福岡大学への志願者の大半を占める福岡市都市圏の高校生も、同様な理由で併願数の減少が続いている考えられる。オープンキャンパスは既に高校 3 年生が進路を決定している 8 月に開催され、参加者も高校 1 年生と 2 年生が主体であるため、2020 年度に中止した影響は 2021 年度入試よりも 2022 年度入試に顕著に表れるとの予想は外れた結果となった。

以下に、理学部の【学校推薦型選抜（A 方式）】と【一般入試】の各方式での志願者数変化について説明する。

【学校推薦型選抜（A 方式）】

志願者は全学では 0.2%の微増だったが、理学部は 2021 年度の 57 名から 2022 年度は 61 名と 4 名（7%）の明らかな増加だった。学科・インスティテュート単位では、応用数学科と数理・情報インスティテュートは 2021 年度に顕著に増加したためか微減し、他学科とインスティテュートが増加した。昨年度に引き続き、福岡大学理学部を第一希望とする受験生が学校推薦型選抜を積極的に受験したと考えられる。

【一般入試】

- ・系統別： 志願者は全学で 2.8%の減少だったが、理学部は 2021 年度の 454 名から 2022 年度は 488 名と 48 名（7.5%）の増加だった。学科・インスティテュート単位では、応用数学科が 14 名（14.9%）の減少であったが、他は 2021 年度並みか増加であった。
- ・前期： 志願者は全学は 2.2%の増加だったが、理学部は 2021 年度の 1590 名から 2022 年度は 1764 名となり、10.9%（174 名）と全学よりも大きく増加した。学科・インスティテュート単位では、物理科学科が減少したが、他は全て増加した。
- ・後期： 志願者は、全学では 3.5%の増加で、理学部は 2021 年度の 54 名から 2022 年度は 67 名と 13 名（24%）の増加だった。後期入試は志願者が少ないが、理学部は全学に比べて明らかに大きな増加率で、2020 年度入試（66 名）と同じ水準に回復した。

応用数学科の志願者は系統別入試で減少したが、前期日程ではその人数分以上に増加し、一般選抜全体では増加している。従って、応用数学科の志願者数は堅調であると考えられる。物理科学科の志願者は系統別入試で増加したが、前期日程ではその分以上に減少し、一般選抜全体でも理学部の学科・インスティテュートの中で唯一減少している。この結果は高校生の物理学離れが影響していると考えられるが、物理科学科は積極的な広報活動が必要と考えられる。